

## 1. 取得明細書

- |               |                              |     |
|---------------|------------------------------|-----|
| (1) 名 称       | 二木長嘯収集石器類 附 神代石図、二木長嘯・木内石亭書状 |     |
| (2) 指 定 種 別   | 国指定重要文化財（考古資料）               |     |
| (3) 指 定 年 月 日 | 昭和62年6月6日                    |     |
| (4) 数 量 等     | 二木長嘯収集石器類                    | 50個 |
|               | 神代石図                         | 1巻  |
|               | 二木長嘯・木内石亭書状                  | 52通 |

## [参考]

二木長嘯<sup>にきちょうしょう</sup>は江戸時代の人で、高山二之町で酒造業を営む二木家の長男として宝暦5年（1755）に生まれた。後に二木家7代目を継ぎ、家業のかたわら学芸に心を寄せ、高山の漢学者赤田臥牛<sup>あかだがぎゅう</sup>を師として漢詩を学んだ。また、神代石<sup>じんだいせき</sup>（石器・石製品）の収集にも尽力し、特に同じく収集家として著名な近江の木内石亭<sup>きのうちせきてい</sup>とは深く交遊し、天明8年（1788）より享和2年（1802）までの書状52通が現存している。文化11年（1814）享年60歳で没した。

長嘯が描いた『神代石図』<sup>じんだいせきず</sup>に収められた石器類は、長嘯の収集品として確実に視できるので、描かれている62個のうち50個が現存している。

石器類は磨製石斧、石冠、石棒の一種で片側に猪首形<sup>いくびがた</sup>を彫刻した石棒、硬玉製大珠等<sup>こうぎょくせいだいじゆ</sup>があり、特殊な用途に用いられたものが多い。

なお、木内石亭書状は、石亭の石に対する愛着<sup>ろうせきか</sup>の強さや弄石家仲間の動静などが記されていて重要なものであり、『神代石図』とともに国の文化財指定を受けている。